

印刷毎分254mのIJP

世界初の軟包装向け間欠オフも開発中

ミヤコシ

ミヤコシ(千葉県習志野市、☎047・493・3854)は、従来の輪転デジタル印刷機の常識を覆す毎分254枚(1200×1200dpi)の超高速で、フルカラー両面印刷を実現した最新のインクジェット(IJ)プレス「MJ P20AX」を発売した。

同社は11月27、28日の2日間、同社・POD事業本部クリンルーム/デモルーム(千葉県八千代市)において、「オープンハウス2017」を開催し、「MJ P20AX」と液体トナー方式の電子写真プレス「MD P4000」(関連記事1面)を発売した。

国内で初披露となった「MJ P20AX」は最新のテクノロジを採用した1200dpiプリンtheadを採用し、ノズル詰まりなど



最新のIJPには黒山の人だかりが



軟包装向け間欠オフ発表の告知も

の高速輪転IJPプレスにおける課題を克服し、オペレーターのメンテナンス負荷を低減し、高い稼働率での印刷運用を可能にした。

標準1200×1200dpi、最高2400×2400dpiという高解像度での印刷にも対応する。

新開発の水性顔料インクにより、オフセット印刷用コート紙へのダイレクト印字を実現。高価なIJ専用紙ではなく、より多様な紙種への対応とコスト優位性の高い製品の提案が可能になる。また上質紙に対しても高濃度かつ裏抜けの少ない高品質印刷を実現した。

2日間で約700人が来場した会場では、シール・ラベル向けの狭幅水性IJP「MJ P13LX」と、コニカミノルタ社の乾式トナ

プリンターにミヤコシの給紙・巻取を連結したラベル用フルカラーデジタルプリントシステム「MK D13A」の実演も行った。

同社では今回の「オープンハウス」で、世界初となる軟包装向け間欠オフセット印刷機

を2018年の年明けに行う内覧会で発表することも明らかにした。

日韓伊の抜型機材を紹介

SDS JAPAN

初の展示会に最新モデル集結

SDS JAPAN(埼玉県吉川市、☎48・993・271)は11月23、25日の3日間、大阪市東成区の日伸製作所で、第1回オープンハウス(招待展示会)を開催した。

会場には、抜型製作に必要な野線切り機や刃曲げ機、溶接機、レーザー加工機が日韓伊から集結した。

韓国Seoul D&S社の自動刃曲げ機「Easy Bender NS-2」は、紙器抜型用と刃高調整できる高汎用の2台がそろった。日本向けにアップグレードさせた新モデルで、操作性や加工精度に定評があり、単一の前方直線運動で素早く仕上げているのが特長だ。ブリッジ・ニック・ブローチ・ミシン刃・リード野



抜型に関連する各種加工機が一堂に

同社オリジナルの全自動野線切り機「JKUC-UT1020」は、必要な刃材(野線)を最大20種類から自動的に選択。自動計測により最適なツールが加工される。

イタリアPENNA社のレーザー加工機「LTF1713RF